

令和2年4月~令和3年3月 公益社団法人 日本グライダークラブの記録



クラブホームページ www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

(目 的)

第 3 条 本クラブは青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もって我国グライダー界の発展に資することを目的とする。

(事 業)

- 第 4 条 本クラブは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1)グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2)グライダー及び曳航機の操縦技術の向上、及びその指導者の養成
- (3)グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運航・事故防止対策に関する 研究並びにその施策
- (4)グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5)この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6)その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in Apr.2020 ~ Mar.2021

令和2年4月~令和3年3月 公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

令和3年4月1日 公益社団法人日本グライダークラブ 理事長 稲垣政文

公益社団法人日本グライダークラブは、内閣府所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された公益社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき令和2年4月~令和3年3月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。令和3年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

A. 公益目的事業 1(公1)グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成

I. グライダー普及のための体験搭乗会

「グライダー体験搭乗会」「家族友人搭乗会」「ふるさと納税返礼体験搭乗」

期 間:令和2年4月~令和3年3月の各週末・祭日 主 催:公益社団法人 日本グライダークラブ

参加人数:4名

既 要:

・クラブのホームページなどを見て来場した希望者に対し、1 日につき数名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。

・家族友人搭乗会を毎月第3日曜日に設定した。

・地元板倉町のふるさと納税の返礼として体験搭乗を実施。(2名)

*新型コロナ対応の緊急事態宣言発令中(令和2年4月~5月、令和3年 1月~3月)は、運航休止および会員限定の運航を実施したので、参加者は 例年より少なかった。

Ⅱ. 安全なグライダーおよびモーターグライダー操縦士の育成

1. 「グライダー操縦士の育成」

期間:令和2年4月~令和3年3月の各週末、祭日、および週日

参加人数:練習生8名

概 要:滑空機(上級・動力)技能証明取得のための学科および操縦技術

について、座学および飛行訓練を実施。

2. 「クロスカントリーフライトパイロットの育成」

① 高性能グライダーによるクロスカントリー

期 間:令和2年4月~令和3年3月の週末、祭日

参加人数:10名

概 要:高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、関東周辺

から日本アルプス、東北地方への長距離飛行の訓練を試みた。

*新型コロナ対応の緊急事態宣言発令中の令和2年4月~5月は

運航休止したため、十分に実施できなかった。

② 動力滑空機による航法訓練

期 間:令和2年4月~令和3年3月の週末、祭日および週日

参加人数:10名

概 要:動力滑空機を使用して関東周辺から福島空港などへの航法訓練

を実施。





3. 「ウエーブフライトパイロットの育成」

期 間:令和2年4月~令和3年3月の週末、祭日および週日

参加人数:10名

概 要:高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ

(山岳波)を利用して高高度飛行の訓練を試みた。

*新型コロナ対応の緊急事態宣言発令中は運航休止したため、

十分に実施できなかった。



4.「世界選手権(速度競技・曲技)、日本選手権等の競技会出場選手の養成」

期 間:令和年2月~令和3年3月の週末および祭日

参加人数:2名

概 要:海外選手権参加予定の2名のパイロットに対し、練習環境の充実

と支援態勢を整えた。

*コロナ禍のため世界選手権は開催されなかった。

Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

1. 「グライダーベーシックコース」

① プレ入門コース

期 間:令和3年2月11日・19日

参加人数 : 4名

概 要:グライダーパイロットに必要な知識、技量、経験などのオリエンテー

ションおよび初ソロに必要な知識などの座学を Zoom を利用してオ

ンラインで開催した。

② 指定養成入所準備コース

期 間: 令和2年 11月 29日・12月 5日

参加人数 : 1名

概 要:指定養成課程の受講準備のためのコースが開催された。

2. 「グライダー操縦士資格取得 受験対策コース」

期 間:令和2年4月~令和3年3月

参加人数:6名

概 要:① 滑空機事業用受験の態勢を整え、令和3年3月19日の航空

局実地試験で津久井会員が合格した。

② 動力滑空機受験のための訓練日を金曜に設定し、野外飛行

訓練などを集中的に実施した。

3.「自家用上級滑空機 指定養成コース」

期 間:令和3年1月9日~31日 (9日間)

参加人数:1名

概 要: 自家用上級滑空機 技能証明取得のためのコースを開設し、1月

31 日の実地試験で渡邉会員が合格した。

4.「事業用·教育証明受験準備講習会」(2回)

期 間: 令和2年12月12・13日、令和3年2月13・14日

参加人数:52名

概 要:高度な指導技術を有する指導者の養成を目的とした講習会を、

Zoom を利用してオンラインで開催した。





5. 「板倉安全会議」

期 間:令和2年12月19日

参加人数:26名

概 要:1年間の板倉滑空場で発生したヒヤリハット、インシデントおよび

過去の事故事例を振り返る学びの場を、Zoom を利用してオンラ

インで開催した。

6.「JSC ウエッブサロン オンラインセミナー」

概 要:運航休止中、ウエッブサイトから参加できるオンラインセミナーを

開催した。

① ソアリング気象予報 BLIPMAP の紹介

期 間:令和2年4月26日

参加人数: 30 名

② 航空気象サービス SkySight の紹介

期 間:令和2年5月1日

参加人数: 34名

③ ソアリングシミュレーター Condor の紹介

期 間:令和2年5月2日

参加人数:33名

7.「整備講習会」

① 滑空機日常基礎整備

期 間: 令和2年8月29・30日

参加人数:6名

概 要:日常の整備作業に必要とされる基礎知識の講習会を開催。

② FRP 取り扱い講習会

期 間:令和2年7月4•5日

参加人数:4名

概 要:FRP機の日常の手入、修理、取り扱いについての講習会を開催。

③ 二等航空運航整備士(上級滑空機)講習会(2回)

期 間:令和2年7月18・19日、10月17・18・24・25日、

11月28・29日

参加人数:15 名

概 要:二等航空運航整備士資格取得のための受験準備講習会を開催。

令和2年10月19日・26日、11月30日の航空局実地試験で

3名が合格した。

4) 二等航空整備士講習会

期 間:令和2年11月22:23日

参加人数 :2名

既 要 :二等航空運航整備士から二等航空整備士への受験準備講習会

を開催。11月24日の航空局実地試験で2名が合格した。

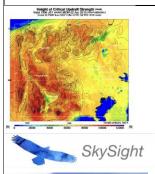
⑤ 動力滑空機整備士講習会

期 間:令和2年4月2·3日、6月20·21日

参加人数 :2名

概 要:滑空機から動力滑空機への限定変更の受験準備講習会を開催。

令和2年6月23日の航空局実地試験で2名が合格した。













8. 「特定操縱技能審査講習会」

期 間:令和2年6月20日

参加人数: 4名

概 要 : 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦士は

2年毎の受験が義務づけられている)の受験準備講習会を開催。

Ⅳ. 競技会の開催



1. 令和 2 年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会

期 間:令和2年4月~令和3年3月

参加人数: 32名

概 要:グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、

および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、オンラインコン

テスト(OLC)を利用した月間競技会を開催。

Ⅵ. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会などの開催



1. 「AFRコース」(Annual Flight Review 年次フライトレビュー)

期 間: 令和2年4月~令和3年3月の各週末、祭日 参加人数: 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員

概 要: 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ

規定により1年に一度義務付けられているAFRを、滑空機、動

力滑空機、曳航機毎に実施。

2.「特定操縦技能審査」(滑空機、飛行機)

期 間: 令和2年4月~令和3年3月の各週末、祭日

参加人数 : 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者 (計 13 名受審)

概 要: 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は

2年毎の受験が義務づけられる)を実施する態勢を整えた。



3. 「操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練」

期 間:令和2年4月~令和3年3月

参加人数:操縦教官18名、曳航パイロット13名

概要:特定操縦技能審査制度、AFR 規定、インストラクターおよび曳航

パイロット任用規定に従い実施。

VI. グライダーに関する出版物等による航空思想の普及





techsoup

Google for Nonprofits

BLIPMAP UniViewer



- 1. 「会員・外部向けインターネットサービスの活用」
 - ① クラブホームページ
 - ② クラブブログ・クラブ Twitter・クラブ Facebook
 - ⑥ ソフトウェア寄贈プログラム「テックスープ」との寄贈プログラム契約、 Microsoft 社製品の優待利用、Zoom 社製品の優待利用
 - ④ Google 社の非営利団体向けプログラム"Google Apps for Nonprofits" の利用
- 2. 「広報誌 JSC ニュースの制作」(1年に4回発行)
- 3.「グライダー気象情報利用者拡大への PR I
 - ① ブリップマップ(BLIPMAP)
 - ② スカイサイト(Sky Sight)

Ⅶ. 学生団体合宿の受け入れ



1.「学生団体の合宿、訓練の受け入れ」

期 間: 11月22·23日 参加団体:早稲田大学航空部

概 要: 板倉滑空場の地理的好気象条件を生かしたソアリング訓練、

飛行機曳航訓練を高性能複座機 DuoDiscus を使用して実施。

B.公益目的事業 2 (公 2 航空情報提供事業)

I. 板倉フライトサービスの運用



「飛行援助用航空局」 板倉 FLIGHT SERVICE (130.675Mhz)

期 間:令和2年4月~令和3年3月の運航日

概 要 : 板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、周辺を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。またスプリアス規制への

対応のため機材更新の検討を行った。

* AIC041/14 板倉 FS: 滑空場周辺半径 5NM 以内 5000ft 以下

Ⅱ. 緊急時の場外離着陸場の提供、維持管理



- 1. 宇都宮基地訓練へリの場外離着陸場としての使用承諾 平成27年9月、陸自宇都宮航空学校より、板倉滑空場を訓練へリの 予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請が あり航空の安全の観点から、年度毎の使用承諾書を締結している。
- 2. 栃木県ドクターヘリのランデブーポイントの提供
- 3. 群馬県ドクターヘリのランデブーポイントの提供 令和 1 年 8 月 20 日、群馬県健康福祉部医務課より、板倉滑空場を救

急医療活動等に伴うドクターへリの離着陸場所として今後使用したい 旨の要請があり、了承した。

C.クラブ組織の整備





- 1. 「クラブ組織の整備等」
- ① 定款に従い公益事業執行体制、定款および規定に沿った業務遂行により、組織の充実を図ると共に、会員データベースの構築など、事務作業の効率化を計画した。
- ② Zoom を利用して会議、各種講習会をオンラインで開催 スポーツ庁・スポーツ活動継続サポート事業の支援を得て板倉サロンの 無線 LAN の増強を実施し、総会、理事会および各種講習会のオンライン 開催を促進した。
- ③ 理事長の交代 吉田理事長から稲垣新理事長への交代がクラブ総会で承認された。
- ④ 新橋事務所、板倉管理人の引退に向けた準備を進めた。



⑤ 各種給付金、助成金、支援金の申請

コロナ禍での活動中止に伴う収入減少への対応のため、各種給付金、助 成金、支援金の申請を行い、以下の給付を得た。

経済産業省 持続化給付金 200 万円 20 万円 群馬県 感染症対策事業継続支援金 板倉町 事業継続支援給付金 10 万円 中小企業庁 家賃支援給付金 26.4 万円 東京都 家賃支援給付金 1.65 万円 20 万円 群馬県 ストップコロナ対策認定店推奨金 スポーツ庁 スポーツ活動継続サポート事業 2.8 万円 合計 2,808,500 円

近隣ホテルとの法人契約

カンデオホテル、ルートイン、館林ヒルズホテルと契約した。

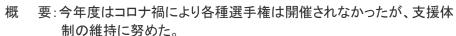
D.その他クラブの目的に必要な事業

I. 人材



1. 「若年層支援プログラムの拡大、全国化」

- 概 要:ユース会員制度、ジュニア会員制度、ラインサポーター制度を活用 して、若年層を支援するとともに、若年会員の拡大に努めた。
- ① ユース会員: 10名 ジュニア会員: 5名
- ② ラインサポーター制度:令和2年度参加者5名 大学航空部員および若手パイロットを対象に、若年層が運航に参加する ことで、クラブに入会しやすくする方策を実施している。
- 2.「世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力」





Ⅱ. 機材・施設



- 1. 「飛行機材の調達」
- ① 次期曳航機のための募集特定寄付を募った。令和2年度実績 1,242,000円(通算 5,582,000円)
- ② 複座機修理期間中、関宿滑空場から ASK13 借用した。
- ③ モーターグライダーの修理期間中、プロペラを会員個人機から借用した。



- 2.「動力機の騒音対策」
- ① 騒音対策のため滑空場周辺に5ヶ所(令和1年7月に1ヶ所追加)の飛行規制空域を設定し、それらの上空を避けるために曳航経路を見直した。
- ② エンジン騒音の低い動力滑空機スーパーディモナを曳航に活用した。
- ③ 滑走路 33 の路面を平坦化して発航位置を 150m 南側へ移動し、北側への曳航上昇高度を高くする等の対策を講じている。
- ④ 騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。



3. 「滑空場の整備」

- ① 滑走路 33 南側部分の路面平坦化を進め、有効滑走路長が 150m 延伸 している。今後も安全な滑走路の効率的利用方法の検討をしていく。
- ② 格納庫大掃除に併せて、トレーラー駐車場及び堤防搬路の整地を行った。
- ③ 滑空場整備用草刈機の老朽化に伴い、仏クーン社製中古機を購入した。



4. 「整備教室および格納庫の施設整備」

- ① 整備講習会参加者への快適性を向上し、耐空検査整備のためのスペース を確保するため、関連施設の整理整頓を図った。
- ② 安全対策のため格納庫周辺に防犯カメラおよびライトを設置した。
- ③ 格納庫サロン、事務所のエアコンを更新した。



5. 「ライブカメラを用いた滑空場運航情報提供事業」

概 要:ライブカメラを設置し、滑走路の状況を常に視認できる態勢をとり、 来訪者の利便性を高めている。(クラブホームページから閲覧可能)

皿. 組織運営



1. 「安全活動の強化」

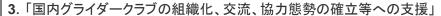
- (1) ヒヤリハットレポートの提出促進、活用により経験を共有し、航空事故防止 を図った。令和2年度の提出数は17レポート。
- ② インストラクターミーティングを計 4 回開催し、教育方法の改善を行った。 期間: 2020 年 8 月 10 日, 8 月 16 日, 11 月 15 日 2021年2月21日
- ③ 毎飛行日、終了後にディブリーフィングを開催し、安全情報を共有した。



- 2.「地域との交流」
- ① ふるさと納税への対応
 - * ふるさと納税の返礼品としてグライダー体験飛行を提供した。 令和2年度 ふるさと納税 体験飛行実施者:2名
 - *クラブ員有志が板倉町へふるさと納税を行い、地域との交流を図った。 またふるさと納税への返礼品として、新たに「日本グライダークラブ利用 券」を登録することで、クラブ員の納税促進を図った。

令和 2 年度 ふるさと納税 クラブ利用券実績:57 件(31 名)

② 板倉町役場訪問(令和2年6月1日) クラブの状況報告と飛行活動への理解を深める目的で、吉田理事長、 稲垣専務理事、鈴木常務理事が訪問した。





① 第8回全国グライダークラブミーティング 期 間:令和2年12月12日 オンライン開催

要:全国16のグライダークラブ運営担当者が集まり、統一的な操縦教 育基準や安全対策の構築、運航業務支援、知識・技術の共有、人 材交流、講習会・イベントの相互案内策定について討議した。当クラ ブより稲垣理事長と丸山理事が出席した。

② 滑空協会の統一的操縦教育教材の作成に協力 英国インストラクターマニュアルの翻訳支援、および日本版グライダー インストラクターマニュアル作成支援を行った。

③ 滑空協会安全委員会 (2回開催) 丸山理事が出席し、他団体とヒヤリハットレポートの共有化、旅客機な どと輻輳する空域の安全確保のための情報共有などを図った。



4.「他クラブ会員の相互受け入れ・協調」

① 板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体 早稲田大学航空部 東京工業大学 OB 会 三田ソアリングクラブ

期 間:令和2年4月~令和3年3月の週末・祭日・週日

概 要:上記団体の飛行活動について運航支援を行い、航空スポーツの

発展と普及に努めた。



5.「他団体の連絡会等への出席・交流」

① 渡良瀬スカイスポーツ協議会の連絡会議へ参加

期 間:令和2年4月•5月

概 要:渡良瀬遊水地で活動する団体との会議に吉田理事長が出席 (毎月開催予定のところ、コロナ禍で2回のみの開催となった)

② 航空安全講習会(日本滑空協会主催、航空局後援)に講師として参加



期 間:令和2年10月17日(長野) 令和3年1月23日(名古屋)

令和 3 年 3 月 27 日(東京)

概 要:鈴木重輝会員が参加

講演内容「管制空域を理解して安全に飛ぼう」



期 間:令和2年11月28日(東京)

令和3年2月14日(オンライン開催)

概 要:山木宏会員が参加 講演内容「安全運航に役立つ整備知識」

期 間:令和3年2月14日・3月6日(オンライン開催)

概要:津久井潤会員が参加

講演内容「安全なウィンチ曳航の理論と実践」



③ 滑空スポーツ講習会「EMFT 異常姿勢からの回避訓練スピン特化」 (日本滑空協会主催)に講師として参加

期 間 : 令和2年 7月17・19日(北海道滝川スカイパーク)

令和2年 9月21-22日(宮城県角田滑空場)

令和2年10月 3・4日 (岐阜県飛騨エアパーク)

令和2年11月14-15日(千葉県関宿滑空場)

令和 2 年 11 月 21・23 日 (熊本県阿蘇場外離着陸場)

概 要:櫻井玲子会員が講師および実技教官として参加した。



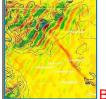
6. 「ウェーブフライトプロジェクト」

期 間:令和2年4月~令和3年3月

概 要:高性能滑空機を使用し、ウェーブ(山岳波)による日本アルプス方面、東北地方から北海道に至る長距離記録飛行、高高度飛行の

研究、空域の開拓を田上、市川、丸山会員を中心として行った。

*コロナ禍による運航休止のため十分なフライトは出来なかった。



BLIPMAP

7.「板倉滑空場 事務所の充実」

概 要:常勤職員(金曜一月曜)の配置、インターネットを利用して気象情報を 取得し、解析する態勢の充実、会員データベース、会計システムの整 備、資料室の整備、飛行記録および航空機の整備期限等の時間管 理、毎飛行日ごとの安全ミーティング開催スペースの充実を図った。

8. 「再生可能エネルギー(太陽光発電システム)の活用、財政基盤の強化」



概 要: 再生可能エネルギーの活用を目的として、太陽光発電システムを格納庫屋根に設置し、省エネおよび光熱費の軽減に寄与している。

E. 活動の記録

1. 発航回数(令和2年4月~令和3年3月) *日本でも有数規模のクラブ運営を実施

曳航回数(航空機曳航) : 617回 (曳航機内訳:ハスキー 602回 スーパーディモナ 15回)

動力滑空機(SL)自力発航回数: **17**回(DG400:2機, DG800A)

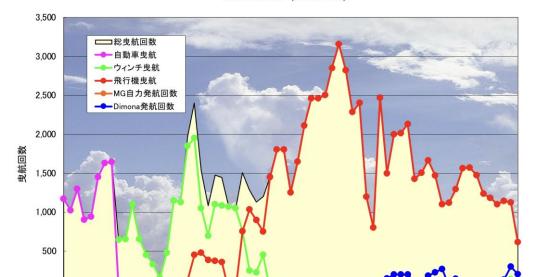
ディモナ飛行回数 : 202 回 (内曳航 15 回)

	機種	飛行時間	飛行回数
個人・グループ機	JA2542 PW5	20:24	17
	JA08AP Discus-a	32:00	15
	JA22KF Discus-b	21:48	20
	JA2414 Discus-b	0	0
	JA2468 Discus-bT	16:01	22
	JA58HD Discus-2b	39:43	21
	JA767Y Discus CS	16:58	16
	JA2399 ASK13	23:53	73
	JA2408 ASK23	0	0
	JA2310 ASW20	0	0
	JA2485 ASW24	0	0
	JA22KJ ASG29E	0	0
	JA2395 DG300	18:17	10
	JA2411 DG300	24:47	18
	JA2316 DG400	6:22	6
	JA40DG DG400	53:16	18
	JA800A DG800A	1:46	2
	JA24UK LS4	13:18	7
	JA2431 LS4-a	0:20	1
	JA11AA LS8-18	42:48	16
	JA2476 SZD-51-1 Jr.	2:15	13
	JA04KH Duo Discus	28:54	3
	JA21TD Duo Discus-T	43:08	26
	JA22MX Duo Discus-XT	20:56	27
	JA22AT ArcusT	15:46	7
	総飛行時間	442:40	_
	総飛行回数	_	338
クラブ機	JA2444 G102 AstirⅢb	47:17	54
	JA2442 G103A Twin II	88:35	196
	JA2412 G103C TwinⅢ	21:51	54
	JA2845 Super Dimona	118:23	202
	JA4171 Husky	96:40	612
	総飛行時間 (滑空機)	276:06	
	総飛行回数 (滑空機)	_	506
総計	総飛行時間 (滑空機)	718:46	
	総飛行回数 (滑空機)	_	844

- 2. 総会員数: 147 名 (内 女性会員 9 名) 内訳:正会員 97 名 (内 ユース会員 10 名、ジュニア会員 5 名)、 賛助会員 48 名、名誉会員 2 名
- 3. 操縱士資格取得

自家用操縱士技能証明(上級滑空機):実地試験合格 1名 事業用操縱士技能証明(上級滑空機):実地試験合格 1名

- 4. 整備士資格取得
 - 二等航空運航整備士(上級滑空機):実地試験合格 3名
 - 二等航空整備士(上級滑空機):実地試験合格 2名
 - 動力滑空機限定変更:実地試験合格 2 名
 - 5. 滑空記章の取得 A 章取得 1 名



曳航回数推移 (1954-2020)

記

令和 2 年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和3年4月1日 公益社団法人 日本グライダークラブ

公益社団法人 日本グライダークラブ URL: www.glider.jp

◆板倉滑空場

◆東京事務所

住所:〒374-0101 住所:〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1 航空会館 9F

群馬県邑楽郡板倉町除川 1286 TEL: 0276-77-0830

TEL/FAX: 03-3591-7728